



上位6頭の選抜まで残った端坂さん所有の「りかこ号」



東館さん所有の「ぎょううん号」



下道さん所有の「あかねぐも号」



3



2



5



4



1

## 第66回岩手県畜産共進会 黒毛和種の産地として名を残す



端坂秋雄さん (田野)

最後の候補6頭まで残れて良かったです。共進会用の牛の飼育は普段と異なり、牛についてより深く知っていなければならず、自分もまだまだ知らないことが多いと感じた大会でした。今後は若い人に期待したいです。



東館優樹さん (吉ヶ沢)

全国大会がかかった共進会は初挑戦でした。2年間、牛の体調管理がとても大変でしたが、少しでも良くしようと頑張りました。今回の経験をこれからの飼育にも生かし、より良い牛を育てていきたいです。



下道初男さん (上外川)

30年以上勉強のつもりで共進会に参加してきました。入賞することだけにこだわらず、今後も農家や関係者の皆さんと力を合わせ、産地づくりとして共進会に取り組み、町産和牛の市場性を高めていきたいです。

第66回岩手県畜産共進会黒毛和種(岩手県畜産協会主催)は7月27日、J A全農いわて中央家畜市場(雫石町)で開催されました。本共進会は、10月に鹿児島県で開催される5年に1度の全国和牛能力共進会(全共)の岩手県代表牛の選考を兼ねた大会で、本町からは生後17〜20か月の雌牛の部門「第3区若雌の2」に、端坂秋雄さん(田野)、東館優樹さん(吉ヶ沢)、下道初男さん(上外川)が出品しました。

4月開催の予備選抜会を通過した全16頭から1頭を選ぶ激戦区。繁殖能力や健全性など、黒毛和種の生産性向上を図る目的の全共で優等賞を獲得できる牛を選抜するため、慎重な審査が行われました。端坂さん、東館さん、下道さんが、それぞれ2年近く手塩にかけた牛たちは堂々と審査会場に並び、端坂さん所有の「りかこ号」が上位6頭まで残り、出品頭数3頭は、奥州市の

4頭に次いで2番目に多く、ホルスタインのみならず黒毛和種の産地としても町の名前を強く印象づけた大会になりました。



関係者総出で牛を手入れするつなぎ場

## ふるさとの夏 3年ぶりに賑わう はなびアール くずまき花Beer2022



6

1観客を魅了した大輪の打ち上げ花火2来場者を楽しませたお菓子まき3さわやかな歌声を披露した橘和徳さん4屋台のかき氷を買う家族5生ビールを提供する商工会青年部6打ち上げ花火を見上げる来場者

町商工会青年部(神谷尚宏会長)主催の「くずまき花Beer2022」は8月17日、葛巻小学校校庭で開催され、約1500人が来場しました。(雨天のため16日の予定を延期して開催) このイベントは、感染症拡大防止のため中止した「くずまきワイン&生ビールまつり」と、打ち上げ花火をメインとした「くずまき夏まつり」を合わせた企画で、お盆の時期のイベントとしては3年ぶりの開催。感染症対策を講じての開催に神谷部長は「皆さんの協力で開催でき嬉しく思います。これからも町を盛り上げていきます」とあいさつし、觸澤義美副町長は「多くの方が楽しみにしてきたイベントの開催に感謝します。大いに楽しみ、英気を養いましょう」と祝辞を述べました。ステージでは、お菓子まきや歌手の橘和徳さんのライブなどが来場者を楽しませたほか、かき氷などを求めて屋台には長い行列ができていました。午後8時には照明が消され、約500発の打ち上げ花火が夜空を彩り、来場者を魅了しました。四日市俵汰さん(葛巻小5年)は「友だちと遊びに来られて楽しかったです。ラムネがおいしかった」と話し、盛岡市から帰省していた赤坂叶絵さんは「子どもと葛巻の家族と一緒に過ごせて嬉しい」と夏の思い出を胸に刻んだ様子でした。